

Y・A BOOKS

～ “おうち時間”に読もう！～

号外 2

(2021.2)



今回は“おうち時間”に読んでほしい

おすすめの本を紹介するよ！



◆ 一〇五度

佐藤まどか／著 あすなろ書房 2017.10 テコ J913-サ 1111440092

イス専門の製作所を経営していた祖父の影響でイスのデザインに興味を持つ中三の真(しん)は編入先の学校で、家がイス屋で将来はモデラー(デザイナーの設計図面を形にする人)になりたい梨々(りり)と出会う。意気投合した二人は極秘でイスのデザインコンペに挑戦することに。猛反対する父に抵抗しながら自分のやりたいことを見つけていきます。

書名の「一〇五度」はイスの背もたれの角度のことだけど、別のメッセージも込められています。本を読んで確かめてみてくださいね。



◆ 僕は上手にしゃべれない

椎野直弥／著 ポプラ社 2017.2 テコ J913-シイ 1111339532

吃音が原因で友達もできず、時々学校を休んでいた悠太。中学入学を機に、そんな自分から抜け出し吃音を治す努力をしようと放送部に入部します。吃音のことを打ち明けても普通に接してくれる、先輩ともう一人の新入部員の古部(こべ)さんに出会い前向きになるものの、同級生にからかわれて落ち込み、古部さんの親切が重荷になり……。

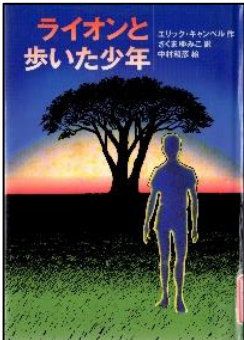
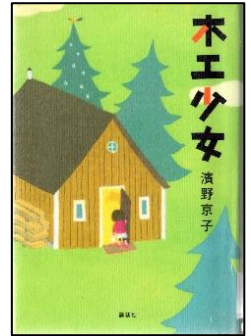
自分だけがつらいのではなく、周りの人達もそれぞれつらい思いをしていることに気づく、前向きで優しい気持ちになれる話です。

◆ 木工少女

濱野京子／著 講談社 2011.3 テコ J913-ハマ 1110156000

高校教師のお父さんの都合で1年だけ東京から自然豊かな村に引っ越してきた小6少女の美楽(みらく)。コンビニが1軒もない村の生活や、「よそ者感」から同級生とも距離を置く日々には耐えきれず、二学期から東京に戻ると宣言しました。ところが木工作家のデンさんと出会い、工房に出入りし、木と触れ合ううちに気持ちが変わり宣言を撤回します。

デンさんや同級生、高校生たちとのかかわりと木工が美楽を成長させていく……。ほっこりと前向きになれるお話です。



◆ ライオンと歩いた少年

エリック・キャンベル／作 ほか 徳間書店 1996.2 B J933-キャ 1108678366

主人公クリスは12歳で母を亡くし、父と新天地タンザニアを目指します。しかし途中飛行機が墜落、軽傷で歩くことができるのはクリスただ一人。助けを探しにサファリへと向かうことに。生死が隣り合わせの厳しい自然の掟と戦う野生の動物たちを目の当たりにして、『怖く』『辛い』体験の連続、連続！そんな中、死に場所を求める一匹の老ライオンと出会います。

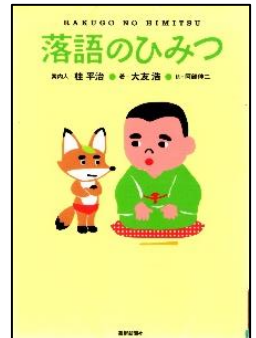
生き長らえたいという思いのクリスとの間に育まれてゆく魂の交流が感動的！ 自然への敬意を感じざるを得ない一冊です。

◆ 落語のひみつ

桂平治／案内人 ほか 芸術新聞社 2010.1 テコ 779.13-カツ 1109814140

400年の歴史を持った伝統芸能と聞くと、敷居が高いのではと思う人もいるでしょう。でも、江戸時代の僧侶が説教のネタとした笑い話がはじまりで、江戸や大坂の町人たちがワイワイガヤガヤと育んできた話芸、となるとグッと身近に感じられますよね？

落語家ってどんな人？ どうやったらなれるの？ という疑問から、落語の歴史や古典落語のふるさと・江戸時代についての知識など、知っているとともにさらに落語を楽しめるひみつを大公開！



◆ 日本人の知らない日本語

蛇蔵／著 メディアファクトリー 2009.2 810.4-ヘヒ 1109749972

しゃもじは室町時代のギャル語だった？ 外国ではテストの〇は間違い？ 目上の方への労いの言葉はどう言えがいい？

本書では日本語学校に通う外国人とそこで教える日本人教師の悪戦苦闘ぶりを、エッセイ風漫画でおもしろく書かれています。日本人なら知っていて当たり前のことから、こんな日本語知らなかった、という日本語知識がぎゅっと詰まって、時に日本人でも間違えている日本語にハツとしたり。日本人だから日本語は話せて当然だけど、その日本語は本当に正しいですか？

読んでみてね！

